

風土記の丘の花だより²⁴¹

今、そしてこれから見られる植物(2024年6月22日)

18日の火曜日には大雨洪水警報が発表されましたが、ここ風土記周辺では大きな被害もなくよかったです。また久しぶりのまとまった雨のおかげで、山の草や木は喜んでいることでしょう。そろそろ夏の花が咲き始めました。



前号で予告したアガパンサスが、谷山家などできれいに咲きはじめています。古い図鑑などではユリ科になっているかもしれませんが、いまではヒガンバナ科に含まれています。まあきれいな花なら何科であってもいいではないですか。もともとはアフリカ辺りが原産とされていますが、明治の中頃にヨーロッパ経由で観賞用に渡来したと言われています。寒冷地では冬に葉が枯れるそうですが、ここでは冬も緑の葉が残っています。写真はまだ咲き始めですが、満開になれば、更にきれいになります。



上のアガパンサスの近くにユウスゲも咲いています。でも、昼間はしぼんでいます。名前のように夕方から咲き始めるので、ご覧になるのなら、夕方か朝早くがいいと思います。今年は開花が少し早いように思います。薄いレモン色のような色で、少し前まで咲いていたトウカンゾウより優しい黄色です。もうすぐよく似た仲間のヤブカンゾウも咲きそうで、トイレ手前のアジサイの植え込みなどで、長い花茎を伸ばしています。



小早川家の庭などでネジバナが咲いています。外で作業される方々のご配慮で、株元に赤い目印を付けてくださり、草刈りを免れたせいで、今年はたくさん咲きました。ネジバナは身近な草ですが、ランの仲間です。小さな花が花茎に螺旋(らせん)状についてネジのようなので、こんな名前です。ネジといっても、ねじらずにまっすぐなものや、右巻きも左巻きもあります。また、色も濃いピンク、薄いピンク、中にはほぼ真っ白というのもある、じっくり観察すると、とても楽しい草花です。



柳川家の庭の奥隅でギンパイソウの白い花が咲いています。でも毎日たくさん咲く花ではありません。それでこれから7月にかけて咲きますが、いつも見られるとは限りません。見られたらラッキーぐらいに思って、見に行ってください。この花はナス科の花で、葉や茎は細くて、まことに頼りないですが、花はとても大きくてアンバランスです。ギンパイとは銀杯のことで、銀(しろがね)の大きな杯に見立てて名前が付けられています。

松下